

PRESS RELEASE 2011年6月2日

「具体」を代表する女性アーティスト田中敦子の欧州巡回個展
「田中敦子 アート・オブ・コネクティング」展
英国・スペイン巡回、来年日本にて展覧会を開催！



「電気服」1956年(1986年に再制作)



「71S」1971年

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、2011年7月27日より、アイコンギャラリー(英国・バーミンガム)において、戦後日本の前衛美術グループ「具体」を代表する女性アーティストとして、近年国内にとどまらず海外でも注目を集めている田中敦子(1932-2005)の欧州における9年ぶりの個展「田中敦子 アート・オブ・コネクティング」を開催します。

今回の展覧会では、音が展示空間を走る《作品》(ベル、1955)や、約200個の電球が点滅する《電気服》(1956)を舞台に登場させ、自らもパフォーマンスを行うなど、造形とパフォーマンスを結びつけたパイオニアとしての50年におよぶ活動を、絵画やコラージュ、記録映像など作品約100点を通して紹介します。

本企画の発案者は、2001年にロンドン・ヘイワード・ギャラリーで開催された日本現代美術展「ファクト・オブ・ライフ展」(国際交流基金共催)のゲスト・キュレーターであり、日本美術に詳しいアイコンギャラリーのディレクター、ジョン・ナサン・ワトキンス氏。1998年にはシドニー・ビエンナーレでアーティストティックディレクターを務め、ヴェネチア・ビエンナーレやテート美術館でも企画展示を手がけています。本展覧会は同氏と3名の専門家から成る日本側実行委員により企画・構成された大規模な個展ということもあり、前衛美術グループ「具体」、また田中敦子の国際的な再評価が期待されています。

英国・アイコンギャラリーでの展示を皮切りに、スペイン・カステジョン現代美術センターを巡回し、2012年東京都現代美術館において展覧会の開催を予定しています。

世界が評価する「具体」の代表でもあるその表現にご注目ください。

【本資料のお問合せ先】

国際交流基金文化事業部 造形美術チーム 担当:平、大西 (TAIRA MASAKO PRESS OFFICE)
 mail: info@tmpress.jp tel: 090-1149-1111

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

www.jpf.go.jp

【展覧会概要】

2011年 7月 27日～ 9月 11日 アイコンギャラリー(英国・バーミンガム)
Ikon Gallery, Birmingham

10月 7日～12月 31日 カステジョン現代美術センター(スペイン・バレンシア州)
Espai d'Art Contemporani de Castelló, Spain

2012年 2月 4日～ 5月 6日 東京都現代美術館

主催: 国際交流基金、開催各美術館

キュレーター: ジョナサン・ワキンス (アイコンギャラリー ディレクター)

コ・キュレーター: 日本側実行委員

加藤瑞穂 (大阪大学総合学術博物館招聘准教授)

河崎晃一 (兵庫県立美術館企画・学芸部門マネージャー 館長補佐)

長谷川祐子 (東京都現代美術館事業企画課長)

コ・キュレーター(スペイン展): ロレンサ・バルボニ(カステジョン現代美術センター ディレクター)

特別助成: 財団法人 石橋財団

助成(英国展のみ): グレイトブリテン・ササカワ財団、大和日英基金

【田中敦子 プロフィール】

1932年、大阪に生まれる。1951年、京都市立美術大学を中退の後、大阪市立美術館付設美術研究所に学ぶ。同研究所に通っていた金山明の助言で抽象絵画に興味を持つようになり、1954年頃に数字をモチーフにした作品を手掛ける。同時期、金山が中心メンバーの一人であった、先鋭な美術を目指す若手作家のグループ・0会に参加し、同会の白髪一雄や村上三郎らと積極的な相互研鑽を図る。1955年に金山、白髪、村上と共に、吉原治良がリーダーを務める具体美術協会(略称: 具体)に加入。10メートル四方のピンクの人絹を地上約30センチの高さに張った作品や、順に鳴り響く20個のベルを会場に設置した作品、あるいは、高さ4.4メートル、幅3.6メートルの巨大な人型七体に管球を取りつけ規則的に光を点滅させた《舞台服》、約200個の多彩な電球・管球を組み合わせ、明滅する光の服に仕立てた《電気服》、次々と衣装を着替えてゆくパフォーマンスなど斬新な作品を立て続けに発表し、1957年頃から、電球とコードの絡まりに着想を得た絵画を制作し始める。その作品が、1957年来日したフランスの批評家ミシェル・タピエの目にとまり、具体の中で「国際的にもっとも確固たる作家群と対比並列すべき」メンバーの一人として高い評価を得る。それ以後タピエを通して欧米で紹介されると同時に、国際展への出品・入賞を果たし、具体の重要性を担う作家の一人と目されるようになった。1965年に具体を退会した後も、精力的に制作活動に取り組み、2004年まで定期的に個展を開催。具体再評価の動きが本格化した1980年代以後は、戦後美術をテーマに据えた国内外の大規模な展覧会や、具体を包括的に検証した展覧会で、常に主要な出品作家の一人として紹介される。また、1990年代後半より具体という歴史的な文脈を超え、一人の作家として注目されるようになり、2001年の芦屋市立美術博物館および静岡県立美術館での回顧展「田中敦子・未知の美の探求 1954-2000」でその存在を改めて広く国内外に知らしめた。2002年にインスブルック、2004年にニューヨーク、2005年にバンクーバーで本格的な個展が企画され、国外でも再評価の機運が高まる中、2005年3月の交通事故が元で同年12月に急逝。2007年、現代美術の動向を知る上で、ヴェネチア・ビエンナーレと並び重要と見なされている大規模な国際展「ドクメンタ12」(ドイツ・カッセル)の出品作家の一人に選出され、翌年にも第16回シドニー・ビエンナーレで取り上げられるなど、没後も国際的評価はさらに揺るぎないものとなっている。

【本資料のお問合せ先】

国際交流基金文化事業部 造形美術チーム 担当: 平、大西 (TAIRA MASAKO PRESS OFFICE)

mail: info@tmppress.jp tel: 090-1149-1111

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

www.jpff.go.jp

【広報用写真】

広報用写真をご用意しております。画像の請求については、①希望画像の番号、②媒体名、③掲載予定時期を表記の上、info@tmpress.jp までご連絡ください。

※ご使用時の注意点とお願い

- ・写真をご使用の際は画像クレジットを記載ください。
- ・トリミング、文字載せ、画像の二次使用は不可。
- ・使用の際は事実関係の確認の為、記事校正を必ずお送りください。
- ・掲載誌又は、掲載記事を担当者までお送りください。

①



電気服
1956 (1986 再制作)
所蔵・写真提供: 高松市美術館

②



71S
1971
所蔵・写真提供: 高知県立美術館

③



「電気服」に基づく素描
1956
所蔵・写真提供: 金沢 21 世紀美術館
撮影: 中道淳 / ナカサンドパートナーズ

④



地獄門
1965-69
所蔵・写真提供: 国立国際美術館

※①～④ 全て Ryoji Ito